



ニューズレター 2015 年度第 3 号

日本音楽表現学会 2016 年 3 月 31 日発行

【巻頭言】 日本音楽表現学会と共に歩む	奥 忍	p. 2
2016-2017 年度会長・理事選挙結果報告	鈴木慎一朗	p. 3
日本音楽表現学会第 14 回 (MEM) 大会のご案内	土門 裕之	p. 4
ご案内、実行委員会組織、大会日程と会場、プログラム概要と発表者氏名		
宿泊、参加費、懇親会、参加申込、送金先、申込切、会場へのアクセス等		
新入会員紹介		p. 8
日本音楽表現学会後援コンサート等情報		p. 9
会員による CD リリース		p.10
会員による新刊		p.11
『音楽表現学』 Vol.14 原稿募集	中村 隆夫	p.12
「日本学術振興会賞」の推薦について		p.13
「第 7 回日本学術振興会育志賞」の推薦について		p.13
事務局からの重要なお願い		p.13
年会費の納入について		
住所・所属・電話番号・メールアドレスの変更は速やかにお届けください！		
事務局からのお知らせ		p.14
ニューズレターへの投稿		
学会の会員サポート制度をご活用下さい。		
『音楽表現学』バックナンバー購入方法		
【各種書式】		p.15
日本音楽表現学会第 14 回 (MEM) 大会アクセス・マップ		
2015 年度役員・委員等一覧		p.16
編集後記		p.16

日本音楽表現学会

所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費：5,000 円

振込先：郵便振込口座 01370=6=78225 日本音楽表現学会



日本音楽表現学会と共に歩む

奥 忍 (ヴァイオリン・インストレーション／理事・事務局長)

今、手元に明るく上品な黄色の冊子があります。『日本音楽表現学会設立大会要項』と題するその冊子には、現在の本学会の原型をはっきりと見ることができます。今から13年前、2003年に現在の学会の形がこんなにも明確な輪郭をもって、表紙から記事内容、広告、後表紙にまで表されていることに驚きを禁じ得ません。

学会設立の問題意識は2000年4月に小さな芽吹きとなり、徐々にコンセンサスの輪が広がり、2003年1月の学会設立発起人会の誕生に至ったことが「設立大会までの経緯」からわかります。本年6月に行われるの大会の愛称、泉の湧き出るところを意味する「MEM」のように波紋が次の波紋を喚び、音楽表現を志す人々の間に徐々に広がっていったのです。

学会設立発起人会は同年2月に「設立趣意書」を完成、設立大会案内資料と共に配付、4月には賛同者が40人になりました。そして5月16日で会員数80名。5月30日にエリザベト音楽大学を会場に産声を上げたのです。

「設立発起人名簿」18人の中には現在でも本学会の運営に力を尽くして下さっている方々が少なくありません。ちなみに「MEM大会」の実行委員長、土門裕之さんのお名前も含まれています。このことからこの学会では、音楽表現という岩盤の中に無数の柱がしっかり打ち込まれて歩みが進められてきたことがわかります。次に「設立趣意書」から3段を引用します。

音楽表現は、音楽で表現を行うことですから、表現そのものを追究していくことが重要であることはいうまでもありません。しかし、歴史を振り返ってみると、R. シューマンの行った文筆活動、G. ムーアの伴奏法の研究、山田耕筰や武満徹の残したさまざまな言説や論述、さらに宮城道雄が行った邦楽器改良など、音楽家によるさまざまな足取りを見ることができます。先人音楽家諸氏による表現を裏付け、サポートする研究なしには私たちの現在は成り立た

ないことに思い至ります。

音楽表現を思考するときには私たちが求めるものは、自然科学のように普遍的な理論に集約されるようなものではありません。多様な音楽の表現について概念を一致させ、定義づけることはきわめて困難です。しかしながら、音楽表現自体に視座を置き、創作や演奏活動を通して得た〈芸術の知〉の意義や価値を改めて認識すること、音楽表現そのものを究明すること、さらに創作・作曲などの一次的表現、それらを音として実体化するための解釈や演奏技法の研究とその実現、聴取者との交感など、表現の多様なあり方や方法を含め、音楽表現に関わる多様な研究をすることが必要です。こうしたことから音楽表現を科学的に体系づけることはきわめて重要なことであると思います。

そこでこの学会では、音楽の各分野の表現者が集まって、音楽表現とは何か、音楽表現の社会的意義、深化する音楽表現、拡大する音楽表現、音楽表現の学習・継承・発展、他の表現分野との関わりなどについて、音楽表現者の視座に立って追究することを目的とします。換言すれば「音楽表現学」を確立しようとするものです。

初回選挙の選挙人・被選挙人名簿には487名の氏名が見られます。岩盤深く打ち込まれた柱の上にコンクリートの基礎を作る段階に進んだのです。

2016-17年度会長・理事選挙は有権者497名で、3名の選挙管理委員のサポートによって実施されました。年次大会は14回を数え、『音楽表現学』はvol.13まで発刊、現在『音楽表現学のフィールド2』が上梓を待っているところです。

音楽表現の意義を社会に向けてアピールし、また有意義な研究成果を積み上げて音楽表現分野の発展と後進への道標を残すためにも、音楽表現者である学会員のみなさん、これからも研究を進めていこうではありませんか。

2016-2017 年度会長・理事選挙結果報告

2015 年度選挙管理委員会

委員長 鈴木慎一郎

委員 笹野恵理子

” 西野 晴香



2015 年度選挙管理委員会では 2016-17 年度会長・理事選挙の開票を 2016 年 3 月 23 日 (水) に本学会事務所において行いました。その結果をここに報告いたします。

記

	役 職	候補者氏名	得票数
1. 有権者数 : 501 名	会 長	後藤 丹	240 票
2. 投票者総数 : 252 名 (50.3%)	理 事	安藤 珠希	222 票
3. 有効投票数 : 251 票		應和 恵子	225 票
4. 無効票 : 1 票 (消印無効)		海津 幸子	226 票
5. 有効投票数における各候補者の得票数		加藤富美子	234 票
		草下 實	231 票
		小西 潤子	230 票
		豊田 典子	223 票
		藤原 嘉文	228 票



鈴木委員長、西野委員、笹野委員

日本音楽表現学会 第14回（メム）大会のご案内

メム大会へのお誘い

日本音楽表現学会会長 安藤 政輝
第14回メム大会が6月4日（土）、5日（日）に北海道深川市で行われます。昨年秋に、ホスト校である拓殖大学北海道短期大学にご挨拶と打ち合わせに伺ったときには、構内いたるところで保育学科学生さんの明るい笑顔に迎えられました。また農学のコースもあり、大学の農場で朝採れたアスパラガスにお目にかかる（はずです）。

基調講演は、「ご近所」旭山動物園からお招きした板東元園長による「動物の声を聞く」、続くシンポジウムは「人間の声を聞く」です。音楽表現の原点としての声に焦点を合わせました。

初日の分科会はすべて「サロン」で通します。専門／関心分野を同じくする会員が集まり、共通の話題・テーマについて話し合う時間です。研究発表は2日目朝から。多彩な研究の成果で今回も満載です。学会統一テーマ「伝統と継承」は、文化庁などからもパネリストをお招きして音楽文化・表現研究の継承と発展の視点から「著作権問題」を考えます。

前回の沖縄から一転して北の端、6月の北海道はベストシーズンです。ラベンダーで有名な美瑛もすぐ近く、広々とした大地と心が皆さんを歓待することでしょう。是非ご参加を!!

6月の北海道へようこそ

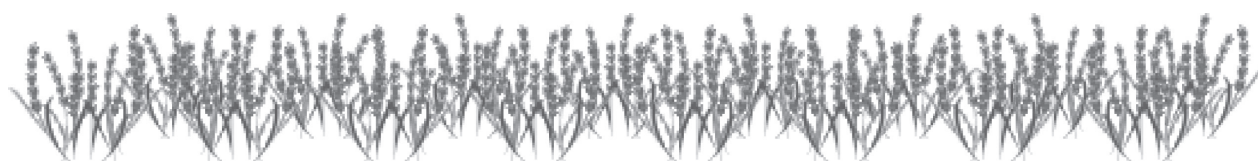
メム大会実行委員長 土門 裕之
みなさま、今年は北海道深川市で全国大会を開催することになりました。第2回ライラック大会が札幌で開催されてから12年ぶりの北海道開催です。

6月初旬の北海道は春を待ちわびた花たちが一斉に咲き誇る一年で最も美しい季節です。高地には雪渓が残っていますが、空の青、白銀を残す山々、そして芽吹きを終えたばかりの新緑。これらのコントラストは、本当に美しい調和だと感じます。

加えて、路地にはニョキニョキとアスパラが姿を現し、海の幸が彩りを添える、実に大地と海からの恵みに感謝すべき「おいしい時期」でもあります。

また、全国的に有名となった旭山動物園、三浦綾子記念館、日本有数と言われる音響を誇る大雪クリスタルホール音楽堂など、隣町の旭川市にもたくさんの魅力があります。

目も心もおなかも満足いただけるよう、実行委員一同、協和音を響かせながら笑顔で皆様をお迎えしたいと思っています。会場までのアクセスではご不便をおかけするかもしれませんが、多くの会員の皆様のお越しを心よりお待ちしております。



1) 大会実行委員会組織（敬称略）：

実行委員長：土門 裕之
副実行委員長：勝谷 友一
委員：岡 健吾、木村 貴紀、森永治ノ介、山田 克巳
他、北海道所在機関の学会員



2) 大会日程と会場：

5日（土）													
10:00	12:20	13:00	13:15	13:20	14:05	14:10	15:40	16:00	17:00	17:10	18:40	19:10	21:00
実行委員会 編集委員会 理事会	受付 エント ランス	開会式		基調講演		シンポジウム		総会		分科会（サロン）		懇親会	
大講義室教室番号										各分科会会場		プラザホテル板倉	
6日（日）													
9:00	9:15	10:45	11:00	12:30	13:30	15:00	15:15	16:45	17:00	18:00			
受付 エント ランス	分科会II A,B,C,D,E,F 各分科会会場		分科会III A,B,C,D,E,F 各分科会会場	昼食	分科会IV A,B,C,D,E,F 各分科会会場		分科会V A,B,C,D,E,F 各分科会会場					新理事会 実行委員会	

3) プログラム概要と発表者等氏名（敬称略）：

基調講演：「動物の声を聞く」

講師：板東^{ばんとう}元^{げん}氏（北海道旭山動物園園長）

シンポジウム：「人間の声を聞く一人が歌うとき（仮）」

司会：草下 實

シンポジスト：小西 潤子、佐々木正利、板東 元の各氏

分科会

I この時間帯はすべて「サロン」となります。サロンでは専門や関心を同じくする会員がが集まり、共通の話題・テーマについて話し合います。1室に複数のサロンが設定されている場合はその室内に複数のコーナーを設けます。当日会員、地域の音楽家も交えてサロンらしいディスカッションが行われます。詳細は『大会要項』でお知らせします。

- ・作曲のサロン ・指揮のサロン ・声のサロン ・ソルフェージュのサロン
- ・ピアノのサロン ・管弦打楽器のサロン ・日本音楽のサロン ・音楽表現と社会のサロン

会場	司会者名	発表種	発表者名	発表題目
II A	小山 和彦	CP	小畑 郁男	安藤 政輝 佐野 仁美 豊田 典子 声と箏のための作品制作—作曲者と演奏者による共同作業の試み
B	小川 有紀	① PP	藤原 嘉文	音楽の即興表現を考える（5） —形式に基づく即興演奏の実践例を中心に—
		② PP	松岡 貴史	和声創作課題導入の提言 —教員養成系大学における音楽理論・作曲の授業の一環として—
C	藤本 逸子	① WS	河本 洋一	コトバから Let's ヒューマンビートボックス！
		② WS	寺内 大輔	「やってみたい表現」を出発点にしたコラボレーション作品をつくろう —《ステージ》の方法を用いて—
D	井上 朋子	① PP	松井 典子	保育士、幼稚園教諭養成の為のピアノ指導法 —Marianne Uszler他著「The well-tempered keyboard teacher」を参考に—
		② PP	櫻井 知子	コーチングを使ったピアノ弾き歌い技術の目標設定 —学生の意識変化とそれに伴う技術の習得について—
E	舟橋三十子	① WS	中村 隆夫	コダーイ・コンセプトに基づくソルフェージュ —音階だけで組み立てる合唱導入課題—
		② PP	山崎 英明	発声におけるピッチ制御の学習機構
F	酒井 勇也	① PP	新山王政和	音楽構成要素の意識化をめざしたアクティブ・ラーニングの実践 —大学1年生を対象に積み重ねた授業実践のまとめと考察—
		② PP	杉山 雄一	「体験型コンサート」における体験プログラムを考える —学生の意識の変化とそれに伴う技術の習得について—
III A	渡会 純一	CP	武本 京子	山口茉莉子 安田 実央 松川侑里香 小坂 有紀 「イメージ奏法」の楽曲分析による演奏法と教育への適用 —大学でのピアノ演奏指導と小学校音楽教育—
B	山名 敏之	① PP	中畑 淳	ショパンのピアノ作品における“書かれたルバート”（仮）
		② PP	上山 典子	リスト＝ワーグナーのオペラ編曲における歌詞の「器楽化」
C	酒匂 淳	① PP	渡辺 修身	オペラにおけるピアノ伴奏法について（仮）
		② PP	澤田まゆみ	ピアノにおける旋律の演奏表現と音響的把握の連関についての一考察 —ドビュッシーの前奏曲集を例に—
D	兼重 直文	① PP	新海 節	歌唱におけるピアノ伴奏法に関する一考察 —伴奏ピアニストのダイナミクスに着目して—

- ② PP 田島 孝一 三和音の3種の指使いを活用したピアノ初歩学習法
—保育者養成課程におけるピアノ指導法改善への一提案—
- E 後藤 丹 ① PP 安田 香 バルクの『アルテンバルク歌曲集』における試み
② PP 村井 勇貴 N. カプースチンの「拡大された調性」に関する研究
—『10のインベンション』に着目して—
- F 永岡 都 ① PP 宮本賢二郎 ドイツにおける音楽教育ルネッサンス
—JeKi(全ての子どもに楽器を) 運動とその検証研究—
② PP 尾見 敦子 学校で音楽に出会い、理解し、楽しむための「鍵」
—ハンガリーのナショナルカリキュラムと教科書の関連を通して探る—
- IV A 木下 千代 WS 深井 尚子 寅嶋 静香
よいピアノ演奏法の再考—スポーツコンディショニングの視点から—
- B 菅 道子 ① PP 曾田 裕司 ヘンリー・ソローの思想に内在する音楽的性格
—ジョン・ケージの美学との比較から—
② PP 大竹 紀子 ヘンリー・カウエルと日本の関係性
- C 戸川 晃子 ① PP 高久 新吾 構造に視点を置いたスタインウェイピアノ奏法—考察
② PP 大石 幸史 音色を評価するための音響分析方法の検討
—倍音のもたらす心理的印象を焦点として—
- D 加藤富美子 ① PP 仲 万美子 戦前の「女学生」の邦楽実習の「場」の揺れ動きと特質 (仮)
② PP 渡部 成哉 『勸進帳』は“音楽”か? —歌舞伎表現と鑑賞教材—
- E 杉江 淑子 パネリスト 中村 滋延 俵 幸嗣 (文化庁長官官房著作権課著作物流通推進室室長)
学会企画統一テーマパネルディスカッション「音楽表現の伝統と伝承」③
音楽文化の継承と発展の視点から著作権を考える (仮)
- F 門脇早聡子 ① CP 加藤 晴子 加藤内藏進
ドイツ文化圏と日本の季節の伝統行事からみる季節感と音楽
—ファスナハトと節分を例に—
② PP 久保田葉子 沖縄県沖縄市立泡瀬小学校における授業づくりと表現活動による幼児
児童の学力を育む教育実践の研究—身体表現を通して主体性を育てる—
- V A 松川 能子 CP 金谷こうすけ 滝田善子
実践的ジャズ試論—「場」としてのライブの作り方
- B 荒川 恵子 ① PP 阿部亮太郎 武満徹《For Away》をガムランの影響を考慮せずに考える
② PP 山下真由美 宮城道雄が子どもに捧げた音楽「童曲」の表現とその世界
—箏とピアノ伴奏による歌唱の試みを通して—
- C 小野 亮祐 ① PP 三島 郁 ハイニヒェンの通奏低音理論
—「数字なしのバス」に対する和音づけの方法—
② PP 末永 雅子 C.Ph.E. バッハのフライエ・ファンタジーに関する研究
—拍節分割と転調の視点から—
- D 稲木 慎司 ① PP 徳永 崇 《氷口御祝》のアンサンブルの実態
② PP 鈴木慎一郎 工藤富次郎の生涯と音楽教育
- E 笹野恵理子 ① PP 村尾 忠廣 宮田知絵
筋電センサーによる上腹部逆腹式呼吸の実験調査
—民謡とソプラノを事例として—
② PP 中 磯子 身体表現を伴う歌唱において曲調の違いが自律神経に及ぼす影響
- F 斎藤 武 ① PP 近藤 晶子 VOCALOIDを使用したコンピューター音楽講座の考察
—一般大学生を対象とした講座の事例研究—
② PP 高旗 健次 C. フレッシュのヴァイオリン奏法の特質
—「応用技術」を中心として—

4) 宿泊：旭川では同日に別の大きな大会が開催されます。土門実行委員長が大会に支障を来さないように日本旅行北海道旭川支店に交渉してくださいました。以下に大至急お申し込み下さい。

株式会社日本旅行北海道旭川支店 〒070-0033 旭川市3条通94丁目 TKフロンティアビル1階

TEL：0166-26-0401 FAX：0166-25-4741 E-MAIL：asahikawa2_nhhkd@nta.co.jp

営業時間：平日 9:30～17:00（土・日・祝日は休業）

なお、旭川駅⇔深川駅は JR 特急 18 分、バスで 50 分です

5) 参加費：「参加申込書」に記載。

6) 懇親会：プラザホテル板倉（〒074-0003 深川市三条6-7 TEL：0164-23-2121 / FAX：0164-23-2125）

例年大変な盛り上がりを見せる懇親会。会場のプラザホテル板倉は JR 深川駅と大学の間に位置する深川唯一無二のホテルです。今回もその道の達人による様々なアトラクションが披露されることが予測されます。みなさまのご参加をお待ちします。

7) 参加申込：以下の書式に必要事項と（✓）をご記入の上、事務局にメールでお送りください。

第 14 回（メモ）大会参加申込書			
ご氏名：			
連絡先：〒			
	E-mail		
参加費：学会員		5,000 円	
	当日会員 1日につき	3,000 円 参加希望日 () 5日 () 6日
	学部学生 1日につき	2,000 円 参加希望日 () 5日 () 6日
懇親会費：		5,000 円	
6日（日）の弁当（お茶付）		700 円	
合計：		_____ 円	

8) 送金先：会員には『大会参加用郵便振替票』を同封しますので、それをお使いください。年会費との混同を避けるためにご協力をよろしくお願いいたします。

学会員以外の方はまず事務局に参加をお申し込み下さい。『大会要項』とともに振替票を送ります。

9) 申込〆切：2016年5月21日（土）

10) 会場へのアクセス

A 「新千歳空港」利用 新千歳空港→札幌駅→深川駅
JR 36分 JR 特急 61分 またはバス 100分

B 「旭川空港」利用 旭川空港→旭川駅→深川駅
バス 35分 JR 特急 18分 またはバス 50分

「深川駅」から「拓殖大学北海道短期大学」 大学バスが特別運行されます。

お急ぎの方は 空知中央バス約 10 分 / タクシー 5 分をご利用下さい。

JR の S フォー切符は 3 月 1 日から廃止されました。往復切符 S ツーをご利用下さい。

新入会員紹介

個人情報に付き伏せています。

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

狭間 由香さん

はざまゆか 鍵盤ハーモニカの魅力～クラシックからポピュラーまで～

日 時：2016年3月18日（金）19:00 開演

会 場：松本市音楽文化ホール（小ホール）

演奏者名：はざまゆか・鍵盤ハーモニカ 吉田桂子・ピアノ 森川由美・エレクトーン

主な内容：剣の舞 リベルタンゴ 鳥の歌古典交響曲（初演）「くるみ割り人形」メドレー

主催後援：ムジカコンパス

高木麻衣子さん

高木麻衣子ピアノリサイタル（ゲスト酒匂淳）

日 時：2016年3月24日（木）19:00 開演

会 場：カワイ表参道コンサートサロン「パウゼ」

料 金：3000円

出 演 者：高木麻衣子、酒匂淳（ゲスト出演）

主な曲目：ローゼンブラット/ビゼーの「カルメン」の主題によるファンタジー（2台ピアノ）

村田 睦美さん

日本音楽の午後

日 時：2016年3月26日（土）14:00 開演

会 場：岐阜市文化センター小劇場

演奏者名：荒木善子、村田睦美 他

曲 目：小林秀雄：落葉松、小栗克裕：ピアノのための組曲「水の彩る風景」より、
貴志康一：竹取物語、宮城道雄：三つの民謡調 他

趣 旨：古典から現代までの日本の歌曲、箏曲、室内楽、ピアノ曲の魅力を探る。

連 絡 先：荒木善子 Tel.058-279-6750

豊田 典子さん

設立記念 歌の会青い星 ★オペラアリアコンサート★

日 時：2016年4月30日（土）14:00 開演

会 場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

料 金：前売り2,500円 当日3,000円

趣 旨：2015年2月に声楽曲の演奏・研究を行い、音楽文化の振興に資することを目的とする団体「歌の会青い星」を設立。1周年を記念し、コンサートを開催する。

主な演目：オペラ「夕鶴」より「つうのARIA」 オペラ「ラクメ」より「鐘の歌」他
演奏者名：豊田典子・岡田征士郎・松永美紗子他
連絡先：フェリーチェ音楽院 0798 - 69 - 3301

河内 勇さん **河内 勇 クラリネットのひととき vol.4**
日 時：2016年5月3日（火・祝）
会 場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
料 金：前売り 2,500円 学生 2,000円 当日 3,000円
演奏者名：河内勇 河内知子 稲富友有子 角田知子 高橋宏明
主な曲目：モーツァルト：クラリネット五重奏曲 イ長調 K.581、ブラームス：クラリネット五重奏曲 口短調 Op.115、他

澤田まゆみさん **澤田まゆみ ピアノリサイタル my favorites ~ vol.4**
ベーゼンドルファーで奏でるベートーヴェン三大ソナタとリスト
日 時：2016年5月8日（日）14：00
会 場：銀座・ヤマハホール
料 金：3500円（全席指定）
主催後援：マネジメント／新演奏家協会 後援／公益社団法人日本演奏連盟他
演奏者名：澤田まゆみ（ピアノ）
曲 目：ベートーヴェン：ピアノソナタ「月光」「悲愴」「熱情」 リスト：伝説よりに
2. 波の上を渡るパオラの聖フランチェスコ
趣 旨：my favorites シリーズの第4回。ベーゼンドルファーによりベートーヴェンの三大ソナタとリストの伝説を奏でる。

会員による CD リリース

安積京子さん **Songs for Violin and Piano**
曲 目：ブラームス：ピアノとヴァイオリンのためのソナタ第1番 op.78「雨の歌」他
演奏者：Vn. ツオルニッツァ・バハロヴァ（ニュルンベルクフィルハーモニー管弦楽団
コンサートミストレス）
Pf. 安積京子
発売元：ORPLID（ドイツ）
<http://tower.jp/item/4071437/Songs-for-Violin-and-Piano>

安藤 政輝さん **安藤政輝 宮城道雄を弾く 5 春を奏でる**
曲 目：《春の海》《さくらさくら》澤和樹（Vn.）、《泉》山本邦山（尺八）など、
発売：VZCG-801 公益財団法人 日本伝統文化振興財団 2015年1月27日
価 格：3,240円（税込）

会員による新刊

安藤 政輝さん 箏・三絃・尺八対照譜「宮城道雄作曲集《軒の雫》」

発行年月日：2015年11月15日

出版社：甲楽出版

定 価：864円

箏・三絃・尺八対照譜「宮城道雄作曲集《千代の寿》」

発行年月日：2015年11月15日

出版社：甲楽出版

定 価：864円

箏対照譜・パート譜「宮城道雄作曲集《喜悅の波と花と》」

発行年月日：2016年1月15日

出版社：甲楽出版

定 価：864円

「箏基礎奏法学習のための さくら～主題と変奏～」

発行年月日：2016年3月12日

出版社：甲楽出版

定 価：756円



『音楽表現学』 Vol.14 原稿募集

学会誌編集委員長 中村 隆夫

『音楽表現学』 Vol.14 の投稿〆切は 2016 年 5 月 31 日（火）です。

投稿資格：投稿者および共同執筆者は、その年度の年会費を納入した会員に限る。（投稿規定 3）

執筆要領・投稿方法：『音楽表現学』 Vol.13 の巻末、または学会 HP の「投稿規程」をご覧ください。

投稿書式：投稿時点では 2 段組でなく、1 段組でご応募ください。

引用文献の記載方法：HP に例示しています。

執筆方法：本学会発行『2015 年版研究論文執筆のしおり』を参考にされることをお勧めします。

* 応募に際しては学会 HP に掲載されている「音楽表現学テンプレート」をご使用ください。

* 応募する前に学会 HP の「投稿チェックリスト」で内容をご確認ください。（以下にも転載します。）

* 原稿には学会 HP に示された書式の「投稿申込書」を同封してください。

【参考資料】

『音楽表現学』投稿チェックリスト

該当する□に✓を入れ、署名をしてください。

- 投稿者および共同執筆者は、日本音楽表現学会の会員であり、本年度の年会費を納入済みである。
- 使用言語は日本語または英語である。
- 原稿の種別は、投稿規程に則している。
- 本年度における投稿は、共同執筆を含め原稿 1 本のみである。
- 原稿の内容はオリジナル（自身の研究および先行研究に照らして独自性を有する）なものである。
- 原稿の内容は未公開、すなわち著書、学会誌、大学紀要などに掲載されていないものである。
- 多重投稿の禁止を理解している。
- 原稿の形式は、A4 版縦置き、横書きとし、日本語の場合は所定のテンプレートに則している。英文の場合は 1 ページあたり概ね 900 語を目安としている。
- 原稿の分量は投稿規程（原著論文、評論論文：20 ページ以内（図表等を含む）、研究報告：10 ページ以内（図表等を含む）、寄書：4 ページ以内（図表等を含む））に則している。
- 原著論文、評論論文、研究報告の冒頭には、タイトル、および、3～5 個のキーワードを記入している。
- 原著論文、評論論文、研究報告には、日本語の場合は 400 字以内の要旨を、英語の場合は英文要旨（200 語程度）と末尾に日本語要旨（400 字以内）を記している。
- 英文での投稿については、事前にネイティヴチェックを受けている。
- 所定の投稿申込書に必要事項を記入している。
- 図および表にはすべて番号とタイトルがついている。
- 楽譜の全曲引用または自身の新作の全曲掲載はしていない。
- 文献からの文言引用は、原文通りであり、その出典を明示している。
- 注および引用文献は、論文の最後に一括して記している。
- 書誌情報には、著者、（論文名）、書名、出版社、出版年、引用ページを含めている。
- 提出においては、以下のものがすべて同封されている。
 1. 投稿申込書
 2. 原稿のコピー 9 部
 3. 要旨（寄書は不要）
- 4. 投稿チェックリスト（本紙）
- 前記とは別に、原稿と投稿申込書をメールに添付して日本音楽表現学会事務局宛に送付する。

「第13回（平成28年度）日本学術振興会賞」の推薦について

日本学術振興会から平成28年度「日本学術振興会賞」の候補者推薦の依頼が届いています。以下の3つの条件に合致する会員は推薦を検討しますので、事務局までお申し出下さい。

- 1) 対象者の条件・平成28年4月1日現在45歳未満
 - ・博士の学位を取得していること（同等以上の学術研究能力を有する者を含む。）
 - ・日本音楽表現学会機関誌『音楽表現学』に論文が掲載されていること。

- 2) 申し出の〆切 2016年4月5日（火）

申し出のあった会員の中から本学会として推薦するにふさわしいと思われる方を1名選出します。候補者として選ばれた方は育志賞の受付期間（4月11日～13日）までに書類を準備、必着で学術振興会に書類を送ることになります。ご質問等がありましたらご遠慮なく事務局 music-expression@music-expresshion.sakura.ne.jp までご連絡下さい。 (理事会)

「第7回（平成28年度）日本学術振興会育志賞」の推薦について

日本学術振興会から平成28年度「日本学術振興会育志賞」の候補者推薦の依頼が届いています。以下の3つの条件に合致する会員は推薦を検討しますので、事務局までお申し出下さい。

- 1) 対象者の条件・平成28年4月1日現在34歳未満
 - ・我が国の大学院後期博士課程に在学している者。
 - ・日本音楽表現学会機関誌『音楽表現学』に論文が掲載されていること。

- 2) 申し出の〆切 2016年5月25日（水）

申し出のあった会員の中から本学会として推薦するにふさわしいと思われる方を1名選出します。候補者として選ばれた方は育志賞の受付期間（4月11日～13日）までに書類を準備、必着で学術振興会に書類を送ることになります。ご質問等がありましたらご遠慮なく事務局 music-expression@music-expresshion.sakura.ne.jp までご連絡下さい。 (理事会)

事務局からの重要なお願い

1) 年会費の納入について

- ・学会のすべての活動は皆様方の年会費で運営されています。機関誌の発行、大会の開催など、さまざまな活動に支障をきたすことのないよう、速やかな納入をお願いいたします。なお、会則第8条(2)にもとづき、会費を連続3年間未納の場合には会員を「除名」となりますのでご注意ください。
- ・年会費については『音楽表現学』巻末に「経費関係細則」が掲載されています。なお、学生会員は、学部生に限られます（会則第5条）。
- ・みなさまに年会費新納入方法ご協力のお願いです。
2016年度会費納入用振込用紙を同封します。また2015年度およびそれまでの年度会費が未納の会員には、

未納分も振込取扱票に記しています。事務局から郵送する振込取扱票をなくされた方には郵便局で備え付けの「振替払込票」に未納年度分を明記の上、送金していただくことになります。

今回は2種の振込票を同封しています。

「年会費振込票」は2016年度会費と2015年度会費までの会費未納者のための払込票です。

「大会参加費振込票」は大会参加の費用です。

入金処理作業の混乱を避けるために、振込票の別についてご協力をお願いします。

- ・納入は必ず郵便振替をお願いします。無意識滞納対策の一助として、納入後はただちに、振替票右側の「振替払込請求書兼受領証」(ATMご利用の場合は「ご利用明細票」)に、納入年度のメモを記載の上、保存されることをお勧めいたします。なお、学会では原則として改めでの領収書発行はしておりません。

2) 住所・所属・電話番号・メールアドレスの変更は速やかにお届け下さい！

事務局からさまざまなお知らせをメール配信していますが、リターン・メールが常に何通かあります。また、機関誌『音楽表現学』等のクロネコDM便が「転居先不明」で返送されてきます。今回の選挙文書に関しても返送がありました。事務局では返送分について宛名の方のメールアドレスを調べて新連絡先を尋ねて再送しています。しかし、メールアドレスも不明な場合には為すすべがありません。郵便局の転送届けは学会には届きません。メールアドレス、連絡先住所、所属等を変更は必ず事務局までお知らせくださいますよう重ねてお願い申し上げます。

事務局からのお知らせ

1) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。

- ・研究ノート、随想など：図表を含めて刷り上がり1頁以内
- ・コンサート案内：学会後援・協賛のものを掲載します。
- ・新刊案内・CD/DVDリリース：会員による刊行物等の紹介を行います。購入方法なども含めてお知らせください。
- ・その他：所属されている他学会の情報などもお寄せください。
- ・投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛をお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

2) 学会の会員サポート制度をご活用下さい。

- ・研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。
『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。
- ・大会の口頭発表は、これまでの研究を発信し、それを参加者一同と共有する場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫、実践を披露し、その妥当性を問うワークショップなど、日本音楽表現学会ならではの

生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。

- ・コンサートの後援・協賛とご案内：会員による各種演奏、ワークショップ、イベントなどの活動を学会は「後援または協賛」します。本学会ホームページのリンクから、〔コンサート等後援/協賛申請フォーム〕にて申請してください。

3) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

メール等で事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

会員価格：Vol.2～Vol.3は1部1500円+送料

Vol.4～Vol.13は1部3000円+送料

一般価格：Vol.2～Vol.3は1部3000円+送料

Vol.4～Vol.13は1部3500円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。なお、Vol.1は残部がありません。

—・—・— ご参考までに —・—・—

『音楽表現学』Vol.13 所収論文等

【原著論文】ヘンデル《メサイア》の歌詞付けと歌詞の発音ー連声の技法をめぐってー 榎山 陽子

【評論論文】ベルクの歌曲「風はあたたかく」(Op.2 終曲)についての試論

ー歌曲「僕の両目をふさいでおくれ」第1曲との秘められた関係ー 安田 香

【研究報告】和声創作課題導入の提言ー教員養成系大学における音楽理論・作曲の授業の一環としてー 松岡 貴史

タイの音楽「ロイクラトン」の教材化ー歌唱とラムウオンの踊りによる授業実践を中心にー 大北 沙織

【第13回(美ら島)大会報告】

基調講演 沖縄の文化と古典芸能 金城 厚

沖縄音楽のローカルとグローバル 小西 潤子

久万田 晋

島袋 君子

金城 厚

他、研究発表等の収録

—・—・—

【各種書式】

1) 「入会申込書」

入 会 申 込 書	[備考]
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。 年 月 日	・「入会申込書」を送付いただきましたら、事務局から年会費納入のための郵便振替票を送ります。年会費ご入金の確認をもって手続きを進め、入会承認後、「入会承認のお知らせ」文書をお手元にお届けします。 ・入会申込書はHPからもダウンロードできます。 ・学会からの連絡(印刷物お届けなど)は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。 ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。
氏 名(ふりがな)：	
専門分野：	
所 属：	
自宅住所：〒	
連絡先：(上記と異なる場合) 〒	
連絡先 Tel.：	
e-mail：	
推薦者名(学会員・1名)	
音楽表現学会に期待されること。ご意見等：	

2) 「後援願」書式 学会 URL 「コンサート・出版物等、後援・協賛申請フォーム」からお申し込みください。

3) その他 他の書式が必要なきには、事務局へお申し出下さい。

日本音楽表現学会第14回（メム）大会アクセス・マップ

会 場：拓殖大学北海道短期大学
 (〒074-8585 北海道深川市メム 4558)
 会 期：2016年6月4日(土)、5日(日)
 実行委員長：土門 裕之
 宿泊ホテル：深川には適当な宿泊施設がありません。
 旭川に宿泊されることをお勧めします。
 (旭川駅→深川駅 JR特急 18分/バス 50分)



メム：アイヌ語で
 泉が湧き出すところ
 を表す言葉です。

拓殖大学北海道短期大学へのアクセス

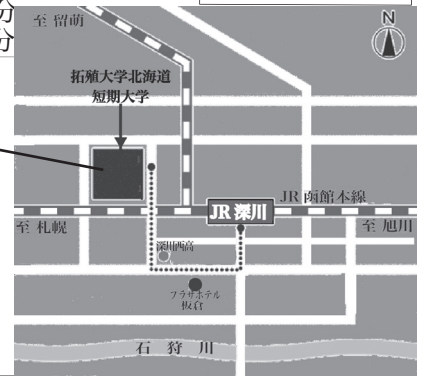
A 「新千歳空港」利用

新千歳空港→札幌駅→深川駅
 JR 36分 JR特急 61分
 またはバス 100分

B 「旭川空港」利用

旭川空港→旭川駅→深川駅
 バス 35分 JR特急 18分
 またはバス 50分

「深川駅」から「拓殖大学北海道短期大学」
 大学バス特別運行
 空知中央バス約10分/タクシー5分



【参考】旭川—深川間のJR運行と料金事情

- ・特急は30分間隔ではありますが、普通列車は極端に少ない。
- ・特急利用には、往復のS切符、

2015年度役員・委員等一覧

会 長：安藤 政輝 副 会 長：後藤 丹 小西 潤子 事務局 長：奥 忍 財務局 長：小畑 郁男 理 事：豊田 典子 (事務局担当) 應和 恵子 (財務局担当) 藤原 嘉文 (総務担当) 木下 千代 (総務担当) 編集委員会： 委員長 中村 隆夫 副委員長 吉永 誠吾 委員 尾見 敦子 上山 典子 齊藤 武 澤田まゆみ 志民 一成 曾田 裕司	『フィールド』編集委員会： 委員長 小野 亮祐 副委員長 安田 香 同 菅 道子 委員 北山 敦康 小西 潤子 杉江 淑子 三島 郁 著作権ワーキング： 代表 権藤 敦子 委員 安藤 珠希 中村 滋延 福永 康之 近藤 晶子	選挙管理委員会： 委員長 鈴木慎一郎 委員 笹野恵理子 西野 晴香 監事： 谷口 雄資 渡会 純一 会長諮問会議：草下 實 佐々木正利 杉江 淑子 安田 香 参事：(事務局) 似内裕美子 松井 萌 近藤 晶子
---	---	--

編 集 後 記

寒暖の差の激しかったこの冬も過ぎ、ようやく春らしい季節になりました。みなさまお元気でお過ごしでしょうか？今回はメム大会の記事が満載です。6月初旬の北海道は花たちが一斉に咲き誇る一年で最も美しい季節と書かれています。基調講演は「動物の声を聞く」、シンポジウムは「人間の声を聞く」という音楽表現の原点としての声がクローズアップされます。サロンも分科会も枠内に納めるのが大変なくらい盛りだくさんで、たくさんの興味深い発表に

接することができるでしょう。今から楽しみです。本学会も500名を超える会員を擁するまでになりました。奥事務局長の巻頭言に書かれています、泉が湧き出るところを意味する「メム」のように波紋が波紋を呼び、音楽表現を志す人々の間に大きく広がってきたのだと実感します。さらに色々な分野と関わりながら多彩な色に光り輝く学会であることを願っています。では、深川でお会いしましょう。
 (藤原 嘉文)